

## クロマツシンポジウム 大会決議（案）

庄内海岸に南北33kmに渡って続く砂防林は、幾多の先人達が300年もの間、世代を越えて、筆舌に尽くし難い困難に耐え、心血を注いで作り上げてくれた大切な遺産である。

今、この砂防林は、日本海の烈風と飛砂から私達を守り続けてくれるだけでなく、環境保全、景観保全そして私達の心身の健康保持にまでその役割を広げている。更に最も新しい役割として、子供達に社会教育の場をも提供している。

このような多面的な役割を持つ庄内海岸の砂防林が、松くい虫被害や手入れ不足などから危機的状況に向かいつつある。

歴史遺産、文化遺産、そして公益的役割を果たす砂防林を、健全かつ有用な姿で未来に引継ぐために、本シンポジウムにおいて、次の通り決議するものである。

- 1 砂防林を健全に保全育成していくためには、行政、森林組合、所有者、生産者関係団体を柱とし、各ボランティア団体と一般市民がそれを支える土台となることの重要性を再認識する。
- 2 「森林」は、「親林」であって始めて広く関心を持ってもらうことが出来る。森林への楽しい関わり方を工夫する。
- 3 砂防林にも「適地適木」があることを認識し、適切なゾーニングにより整備する。
- 4 砂防林の有する豊かな恵みを、バイオマス資源として有効に活用することを研究する。
- 5 砂防林は、庄内地域の特性を形作る大きな要素となっている。そしてそれは、先人が遺した業績の上に成り立っている。今後私達は、平成の先人として、世界遺産登録も視野に入れ、貴重な植林の歴史や資料を長く保存開示し、庄内海岸の砂防林を守り育てていく活動を推進する。

以上、決議する。

平成16年10月30日

クロマツシンポジウム